

平成29年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果

表 平成29年度ヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

	調査地点(供試個体数)	保毒虫率(%)	(昨年度)
東部地域	加西市別府町(90)	0.0	(0.0)
	加東市社町(90)	1.1	(1.1)
	加東市滝野町(90)	1.1	(3.3)
	西脇市黒田庄町(90)	0.0	(0.0)
	多可町加美区(90)	0.0	(2.2)
	加古川市志方町(90)	0.0	(2.2)
西部地域	神河町(90)	3.3	(4.4)
	宍粟市山崎町(90)	3.3	(2.2)
	佐用町(90)	1.1	(3.3)
	上郡町(90)	4.4	(1.1)
	平均	1.4	(2.0)

供試虫:平成29年5月23日、または5月31日に小麦ほ場から採取した。
検定:簡易エライザ法による。平成29年6月1日～6月9日に実施した。

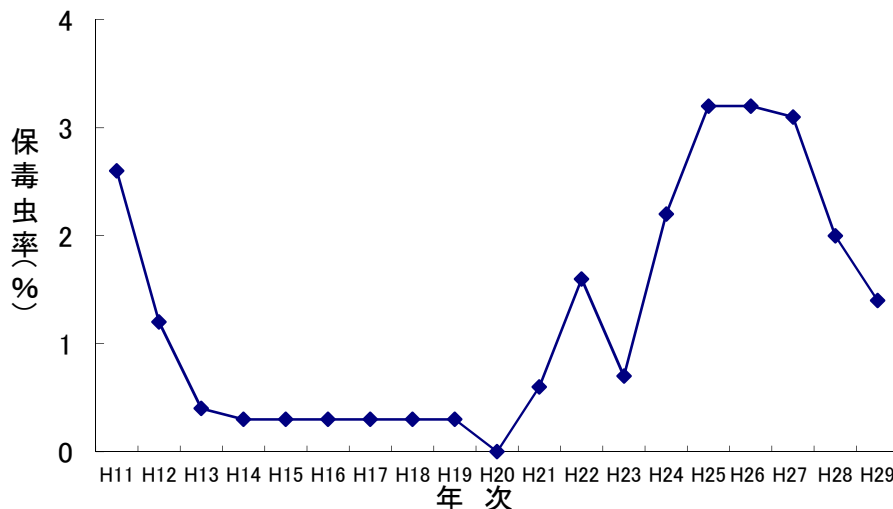


図 兵庫県におけるヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率年次推移

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、平成21年以降増加傾向にあり、水稻でのイネ縞葉枯病の発病を警戒している。

本年の第1世代虫(小麦採集虫)の保毒虫率は、定点平均で1.4%と昨年に比べて低く、最近の2年では減少傾向が見られている。しかし、本年の発生量はすくい取り10回振りで172.3頭と過去5年平均51.7頭の3倍以上となっており、第1世代成虫の水田への飛来が多くなり、本病が助長される条件となっている。また、上表に記した定点以外にも、高い保毒虫率と発生量が見られている地点*があり、イネ縞葉枯病の発病には依然として注意が必要である。

*赤穂市:3.3%(198.0頭)、姫路市:13.0%(42.1頭)

保毒虫率(すくい取り10回振り虫数)